



コルクは何でできているの

コルクガシからできている

あなたは、おうちの方が、ブドウ酒のコルクせんをぬくのを見たことがありますか。ブドウ酒用のせんぬきでくると回して、ポンとぬきますね。ブドウ酒が残ったら、また、コルクせんをして、保存しますね。

このコルクは、ブナ科のコルクガシという木からとれるのです。コルクガシは、地中海沿岸地方原産の木で、高さが18メートルにもなります。樹皮にコルク層がよく発達するので、コルクの製造に利用されます。毎年、厚さ4～5センチメートルのコルクをとることができ、100～150年もの間、とりつづけることができます。

コルクガシのコルクは、最も質がよく、軽くて、水や空気をまったく通さず、熱を伝えにくい性質をもつので、いろいろ利用されています。

このほか、日本にあるものとしては、ブナ科のアベマキのコルク層も、コルクとして利用されています。

コルクの利用方法

コルクは、びんのせんのほか、金庫、冷蔵庫、救命胴衣などにも利用されています。また、コルクは化学実験器具のせんや、ガラス管などを通して、器具をつなぐ道具としても利用されています。コルクは、化学薬品にとけにくく、軽く、よくもむと、もとの形にもどる性質をもっているのです。(監修・青木 国夫)

